

一 漢字の読み書き 解答・解説

問一（二点）	正答	しんちょう	解説	注意深く行動すること。
問二（二点）	正答	せいか	解説	行動などによって得られたよい結果。
問三（二点）	正答	じゅうそう	解説	峰づたいに歩いていくこと。
問四（二点）	正答	さえぎる	解説	途中で止めること。「遮」の送り仮名は「る」。
問五（二点）	正答	蒸発	解説	液体の表面から気体になること。
問六（二点）	正答	負担	解説	費用や役割を引き受けること。
問七（二点）	正答	搬送	解説	人や物を運び送ること。
問八（二点）	正答	原因	解説	物事を引き起こしたもと。

二 言葉の知識 解答・解説

問九（一点） 正答 抽象 解説 個別の事物から共通する性質を取り出すこと。

問十（一点） 正答 ウ 解説 事情によく合っているという意味。

問十一（一点） 正答 ア 解説 心配がなくなり、ほっとすること。

問十二（一点） 正答 イ 解説 数値・程度などが上回るときは「超える」。

三 文法と表現 解答・解説

問十三 (二点) 正答 庭／の／花／が／咲く。 解説 「の」「が」は付属語で、それぞれ一単語。文節の区切りとは異なる。

問十四 (二点) 正答 の・が 解説 自立語に付いて文中で働く助詞である。 採点 各一点。順不同。

問十五 (二点) 正答 形容詞 解説 言い切る形が「い」で終わり、性質・状態を表す。

問十六 (二点) 正答 形容動詞 解説 言い切る形は「静かだ」。名詞の前では「静かな」となる。

問十七 (二点) 正答 木が 解説 どの木なのかを限定する。「大きく」は「育った」にかかる。

問十八 (二点) 正答 エ 解説 「いらっしゃる」は「いる」の尊敬語。「おる」は自分側を低める表現。

四 小説を読む 解答・解説

問十九（二点） 正答 ウ 解説 「途切れず、すらすら聞こえる」が最初の基準。

問二十（二点） 正答 イ 解説 「私」は笑う一方、結衣は笑わず、返事の前にも注意を向ける。二人の受け止め方が対比されている。

問二十一（三点） 解答例（三十六字） 店主の返事だけでなく、その前の沈黙や音にも思いが表れていると考えたから。 解説 結衣は答えの内容を聞き直すのではなく、言葉に至るまでを聞こうとしている。 採点 返事前の沈黙・音一点、言葉以外にも店主の思いがある二点。

問二十二（三点） 正答 ア 解説 当初は不要と考えた時間に何かがあると気づき、そのまま聞こうとしている。

問二十三（三点） 正答 店を閉めて楽になる気持ちと、寂しくなる気持ち。 解説 「楽になりますか。それとも、寂しいですか」という問いを受けている。 採点 楽になること一点、寂しくなること二点。順不同。

問二十四（四点） 解答例（四十七字） 返事を待つ沈黙は無駄な時間ではなく、店主が複雑な気持ちを言葉にするための時間だと分かったこと。 解説 時計で測る長さが変化したわけではない。「私」の沈黙への理解が変わった。 採点 無駄な時間ではないと捉え直した二点、複雑な思いを言葉にする時間二点。

問二十五（五点） 解答例（四十七字） 初めは削られた返事前の沈黙が、最後には大切な時間として残され、「私」の聞き方の変化を示すから。 解説 冒頭と結末で同じ沈黙が異なる意味をもつ構成に注目する。 採点 最初は沈黙を削る一点、最後は残す一点、同じ時間の意味の変化一点、「私」の聞き方・理解の変化二点。

五 説明文・論説文を読む 解答・解説

問二十六（二点） 正答 ア 解説 集計した数字だけで催しの成功を判断してよいかという問い。

問二十七（二点） 正答 エ 解説 来場者数の多さの利点に続き、その限界を示す逆接。

問二十八（三点） 正答 訪れた人が展示をどう受け止めたか。 解説 ②に示された、人数だけでは見えない内容を挙げる。
別解・許容 初めて来た人にも説明が伝わったか。 採点 展示の受け止め方、または初来場者への説明の伝わり方を正しく書けば三点。

問二十九（三点） 解答例（三十六字） 催しの目的によって、確かめるべき成果や集めるべき情報の種類が異なるから。 解説
目的が、どんな資料を集めるかの基準になる。 採点 目的との関係一点、成果・必要な情報の種類が変わる二点。

問三十（二点） 正答 ウ 解説 印象に残った一文を全員の考えとみなさないという限界への注意。

問三十一（四点） 正答 イ 解説 数字と感想の両方を、目的や資料の限界に注意して組み合わせる。

問三十二（五点） 解答例（五十六字） 来場者が展示から何を理解したかを感想や質問で調べる。人数の増加だけでは、内容の理解の深さまでは判断できないから。 解説 「内容を理解した」ことに直接関係する情報を選ぶ。売上や天気だけでは裏付けにならない。 採点 理解内容を確認する調査二点、方法の具体性一点、人数だけでは理解を判断できない理由二点。

六 古典 解答・解説

問三十三（二点） 正答 あらわす 解説 語中の「は」を「わ」に直す。

問三十四（二点） 正答 ウ 解説 長くは続かないという意味。

問三十五（二点） 正答 風の前の塵 解説 「春の夜の夢」は、おごれる人が久しく続かないことのたとえ。

問三十六（三点） 解答例（三十七字） この世の物事は変わり続け、勢いの盛んな者もいつかは衰えて滅びるという考え。 解説 諸行無常と盛者必衰という、冒頭を貫く考えをまとめる。 採点 物事は変化する一点、盛んな者も衰え滅びる二点。

問三十七（三点） 正答 五言絶句 解説 一句が五字で、四句から成る。句数と一行の字数を両方確かめる。

問三十八（四点） 解答例（四十一字） 昨夜の風雨を思い出し、その風や雨で花がどれほど散ってしまったのかを気にかけている。 解説 三句目で昨夜を回想し、四句目で花の様子へ思いを向ける。 採点 昨夜の風雨二点、花がどれほど散ったか二点。

七 資料を用いて書く 解答・解説

問三十九（二点） 正答 ウ 解説 体験者は増えたが、満足した人数は同数。比率も変わるため人数だけで満足度の向上は言えない。

問四十（六点） 解答例（七十二字） 体験者は四十人から六十人に増えたが、満足した人は三十二人のままだ。説明の分かりにくい点を尋ねれば、人数が増えても伝わる説明に直す手がかかるになる。 解説 質問は、参加者の体験を確かめ、次の改善につながるものならよい。表にない不満の理由を事実として決め付けない。 採点 二年比較の正確な事実二点、具体的な追加質問二点、改善とのつながり二点。

採点の共通規則と出典

記述は解答例です。本文・資料に合い、指定条件を満たす同内容の答えは正解とします。書き取りは漢字、読みはひらがなで採点します。

記述の内容点は各問の基準で加算します。字数不足・超過は内容点から1点減点（0点未満にしない）。誤字・脱字や不自然な文末は、意味を妨げる場合に限り1問につき1点減点。複数の形式違反があっても、形式による減点は合計1点までです。

現代文、設問、現代語の説明、表のデータは本教材のために作成しました。古典は著作権保護期間の満了した原文を抜粋し、表記を学習用に整えています。架空の調査を実際の統計として用いないでください。

文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編」と、光村図書「令和7年度版 年間指導計画例」で学年の学習内容を確認しました。各校の定期試験問題・出題頻度を収集したものではありません。学校の試験範囲に合わせて使ってください。

確認日：2026年10月。全問の内容・解答・字数・図表・表示をAIによる独立確認で点検しました。教員や生徒による実地検証は行っていません。

範囲の参照先

文部科学省 www.mext.go.jp

光村図書 www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/c-kokugo/keikaku

古典本文の照合先

『平家物語』冒頭（作者未詳）／教育出版 国語教育通信『道標』

www.kyoiku-shuppan.co.jp/tsushin/files/11st_01kokugo.pdf

孟浩然『春暁』／立命館大学 中国文学・思想専攻 カレンダー2020

www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/cl/koten/teikou/tekocalendar2020.pdf